

大田っ子だより R6.7.19 文責 校長

～地域の方の温かい見守りに支えられて～

6月に植えたさつまいもの苗。ある日、約4分の1の苗の葉が無くなっています。どうやら、鹿が葉を食べに来たようです。地域の方からご助言をいただき、鹿が入らないように簡単な柵を子どもと一緒に設置しようとしていた時のこと。ちょうどその作業を地域の中山田さんが見かけ、「ピンクのテープを持っているから、それを張ったらいいよ」と、持っていたテープを分けてくださったのです。

しばらくすると、地域の野上さんから連絡がありました。「知り合いからさつまいもの苗を分けてもらうように手配をしたので、鹿に食べられたところを植え替えましょう」と、ありがたいご提案をいただきました。

7月に入ると、今度は地域の吉廣さんが、「今の柵だったら、鹿が飛び越えてしまうだろうから、もう少し高い柵を設置してあげましょう」と、土日に立派な柵を設置してくださいました。

このように、地域の皆様が、常に本校を温かく見守り、そして、困りにすぐに手を差し伸べてくださり、大変ありがたいと思います。

早速、「鹿も生きるために葉を食べた」こと、「作物を育てることは大変なのだ」ということなど、人も動物も「生きる」ために為すこととその難しさとともに、学校では「地域の方が、いつもみんなのことを見守ってくださっている」ことを、子どもたちに話しました。そして先週、1年生の子どもを中心に、野上さんがお世話をしてくださった苗に植え替えました。日照りが続き、土が固くなっており、草もたくさん生えて、植え替えに手間取りながらも、子どもたちは、なんとか苗を植え替えることができました。がんばった汗が光っていました。



～水難事故を0（ゼロ）に～

暑くなり、水遊びの機会が増えると同時に、水難事故の悲しいニュースも流れています。明日から夏休みに入り、本校の子どもたちも海や川で水遊びをする機会が多くなることでしょう。そこで、水難事故から自分の命を守るための学習を行いました。

溺れてしまった時に自分の身を守るには、“助けが来るまで浮かんで待つ”ことが大事なのだそうです。事故は普段

着で発生することもありますから、普段着を着たままで仰向けになって浮かぶ練習をしました。このとき、顎を上げて、口と鼻が真上を向くように意識し、力を抜いて身をまかせることが、上手に浮かぶコツのようです。

水遊びは楽しいものですが、危険と隣り合わせでもあります。学校でも指導をしていますが、“子どもだけで海や川には行かないこと”を、ご家庭でも子どもさんにお話しいただくようお願いいたします。また、ご家族で楽しむときには、天候を確認し、安全な場所で思いっきり水遊びを楽しんでいただきたいと思います。



～1学期にみる“進んで”の姿を夏休みにも～

1学期もあっという間にすぎ、終業式を迎えました。本日までの約4か月間、「ふるさとを愛し 進んで考え行動する 笑顔輝く大田っ子の育成」を学校教育目標に据え、「きづく子・かしい子・やさしい子・たくましい子」という4つの子ども像にせまるべく、特に“進んで”をキーワードに自ら考えて動くことを大切に、さまざまな取組を行ってまいりました。これまでも本通信でお知らせしてきましたが、子どもたちの姿からその成長ぶりも確かなものとなっています。

保護者の皆様、地域の皆様には、本校の教育活動に多大なるご支援・ご協力を賜り、この場を借りてお礼申し上げます。

明日から夏休みが始まり、子どもたちは、ご家庭での生活が中心となってまいります。ご家庭でも、「子どもが自ら考え、進んで行動することができるよう、指示は最低限に控え、子どもに考えさせ、任せる姿勢や待つ姿勢」を、ぜひ大事にさせていただきたいと思います。

そして、学校から出された夏休みの生活のきまりを守りながら、充実した夏休みを過ごしてほしいと思います。

夏休み後、一段と体も心もたくましくなった子どもたちと再会できることを楽しみにしております。